

地域のナースをつなぐ学びの場： 静岡県西部地区 ストーマリハビリ テーション講習会の役割

金子早苗¹⁾，春田純香²⁾

1) 医療法人社団 松愛会 松田病院 元看護部長 / 副診療部長

2) 医療法人社団 松愛会 松田病院 看護師主任 / 事務局アシスタント

Point

- ▶ 地域の看護師をつなぎ看護の質を向上させ、患者によりよい看護を提供する
- ▶ 皮膚・排泄ケア認定看護師は地域の看護師にストーマリハビリテーションの知識・技術・こころの向上を指導する機会をもつことで、所属機関にとらわれず地域全体の看護の質向上のためリーダーとしての役割を認識する
- ▶ 各施設とのコミュニケーションをはかり、顔の見える関係をつくる
- ▶ 装具メーカー、ディーラーとの連携をはかり、災害やその他非常時のネットワークづくりに備える

はじめに

松田病院（以下、当院）は1986年に開院しました。開院当初から大腸がん、クローン病で手術する患者が多く、それと同時にストーマ造設の症例も多くなりました。各種の背景よりストーマケアに難渋するケースもみられ、また他施設からもス

トーマケアに苦慮しているとの声が聞かれ、当院だけの問題ではない現状を知りました。オストメイトのQOLを何とか上げたい、その思いで当院も含め地域全体のストーマリハビリテーションの質を上げる必要を感じ、静岡県西部地区ストーマ

リハビリテーション講習会（以下、講習会）を開催し、皮膚・排泄ケア認定看護師とともに事務局として今日まで活動してきました。

講習会の歩みと活動報告、当院の患者会とストーマケアへの関わりを振り返り、報告します。

松田病院とストーマケアの取り組み（表1）

1986年1月に当院は開院しました。同年11月には患者会『松田会』が発足し、日帰り旅行を、翌年の1987年11月には1泊2日のバス旅行を開催しました。

1990年1月にストーマ外来が開設され、翌年には当院が事務局となり第3回目の講習会を開催しました。1995年4月にはWOCナースが入職し、翌1996年1月に、管理棟建築に伴いストーマ専用室が設置されました。2003年12月にオストメイト対応トイレが設置され、2004年1月にはコンチネンスアドバイザーが入職し、2010年6月に皮膚・排泄ケア認定看護師が配置され、現在に至ります。

表1 松田病院とストーマケアの取り組み

年月	内容
1986年1月	松田病院 開院
1986年11月	患者会『松田会』発足 日帰り旅行
1987年11月	患者会 1泊2日のバス旅行
1990年1月	ストーマ外来 開設
1991年1月	静岡県西部地区ストーマリハビリテーション講習会開催 事務局
1995年4月	WOC ナース 入職
1996年1月	ストーマ専用室 設置 (管理棟建築に伴い)
2003年12月	オストメイト対応トイレ 設置
2004年1月	コンチネンスアドバイザー 入職
2010年6月	皮膚・排泄ケア認定看護師 配置、 現在に至る

静岡県西部地区ストーマリハビリテーション講習会開催の歩み

現在の主催は、静岡県西部地区施設の皮膚・排泄ケア認定看護師16名と事務局の局長1名、アシスタント3名の合計19名のメンバーで活動しています。

講習会は年1回開催、運営会議4回、反省会1回を行っており、参加施設は静岡県西部地区の大学病院、総合病院、中小病院、老人施設や訪問看護ステーションです。参加人数は定員50名で、実際は1グループ4～6名で9グループです（表2）。新人看護師もブランクのある看護師も気軽に参加できる講習会となっています。

講習会の成り立ちは、当院が1986年1月に大腸肛門科専門病院として開院し、大腸がん、直腸

がん、肛門がん、クローン病、潰瘍性大腸炎の手術でストーマ造設される患者がおり、ストーマケアは必須でした。

1986年開院当時の当院では、ストーマ装具といえばまだ粘着性装具が多く使われ、装着すれば皮膚のかぶれが生じ、便が漏れることもたびたびありました。うまくいかないケアに、患者はもとより看護師も不安となり、ストーマケアの基礎を学ぶ必要性を感じました。そこでET (enterostomal therapist)、現在の皮膚・排泄ケア認定看護師に講師を依頼して基礎を学びました。他施設でもオストメイトのストーマケアを充実させていきたいと